

新庁舎整備事業市民説明会 2021
意見交換結果概要（11月8日古井地区開催分）

- 日 時 令和3年11月8日（月）午後7時～8時30分
- 会 場 上古井交流センター
- 出席者 18人（参加市民）
- 内 容
- 【質問・意見・提案等】
- ⇒【回答】

□美濃太田駅前には30年前に浸水した場所であり、新庁舎は駅の北の方に整備すべき。

⇒美濃太田駅の南、新庁舎整備を計画している場所は、国土交通省の木曾川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）において、1000年に一度の確率で深さ5～10mの浸水が想定されている。庁舎機能を維持するために機械設備を3階以上に配置するなどの浸水対策を進め、防災拠点としての機能を維持強化していく。

□現庁舎跡地や駅北スーパー周辺に新庁舎を建てることは無理であり、候補地に入れるべきではない。

美濃太田駅南では、駐車場が分散することが不便である。

⇒新庁舎整備の候補地は、新庁舎整備基本構想策定時の市民ワークショップで8箇所の候補地が提案され、実現の可能性等を考慮した結果、新庁舎整備基本構想において4箇所の候補地が選定された。その後、未来のまちづくり委員会で1箇所（美濃太田駅周辺）が選定された。

駐車場については、市街地再開発事業の準備が進んできたことから、南側の民間の土地の活用（購入）を検討していきたい。

□美濃太田駅周辺のランニングコストが低いが、ペDESTリアンデッキ等の費用が追加で必要になるのでは。

中心市街地に市庁舎をつくることは大賛成。岐阜市の中心部が寂れたのは県庁が郊外へ移転してしまったから。ぜひ中心市街地に新庁舎をつくってほしい。

⇒ライフサイクルコストは、商業ビルの建物機能の維持費用をあわせて考え、美濃太田駅周辺で整備する場合、商業ビルの機能の一部を引き継ぐ多機能な庁舎建物を整備することによってもコストが低く抑えられている。ペDESTリアンデッキの費用はコスト比較に含んでいる。また、駅周辺の道路整備にかかる費用も市の事業債等の財政見通しの中に含んでいる。

□若い人から高齢の人まで、新庁舎の整備地を美濃太田駅周辺がいいと考えているか。

⇒これまで実施した出前講座では若い人から高齢の方まで参加されているが、今後も意見交換の場を重ねていきたい。

□美濃加茂市の人口は、北部と南部で2～3倍ほどの差があり、住民サービスからいえば北部が好ましい。美濃太田駅周辺、大手町公園を活用できないか。

⇒美濃太田駅南の新庁舎整備地はすべてにおいて100点満点の候補地ではない。他の候補地と評価項目を考慮して比較した結果、美濃太田駅周辺が新庁舎の整備地として最も適していると評価している。大手町公園は都市公園であり、庁舎を建てるのは都市計画法上困難である。前平公園も同じく都市公園であり、前平公園周辺において新庁舎を整備する場合は、県に貸している県畜産研究所の敷地（市有地）を活用する方向で検討した。

□市民ワークショップはどういう方法で参加者を集めたのか。

日本中で1000年に一度の規模の災害が起きている今、わざわざ低い場所に新庁舎をつくる必要はない。

⇒ワークショップは2種類あり、1つは市民ワークショップ、もう1つはおでかけワークショップであり、外国人の方や障がいのある方など、こちらから話を聞きにいく形で実施した。新庁舎整備基本構想策定委員会と未来のまちづくり委員会という2つの委員会を設けた。これらの委員会では同じテーマを議論していくことになるので、基本構想策定委員会に参画された一部の委員が、引き続いて未来のまちづくり委員会に参加された。基本構想策定委員会の市民公募委員の募集は広報などで行った。

新庁舎を整備する場所は議会で条例が定められた時に決まるものであり、今後も市民に理解いただけるように市の計画を説明していきたい。

木曾川洪水浸水想定区域図の想定最大規模で想定されている2日間で527mmという降雨の条件は、これまで美濃加茂市が経験したことがない値である。もしそのような雨が降れば、いろんな川で氾濫や土砂災害が起こることになり、全ての場所が同じような危険をはらんでいることもご理解いただきたい。

□議会では美濃太田駅南に新庁舎を整備した場合、付近のテナントを借りるとか、駐車場を借りるとか、民間の施設を活用するとか、ともいわれているが。

⇒現時点で新庁舎のためにテナントを借りることを決定したことはない、その予定もない。来庁者用駐車場についても借りる予定はない。

□庁舎とシティホテルとは切り離して考えるべきだが、シティホテルの補償の費用は試算に入れるべきである。

美濃太田駅前の再開発事業には多くの費用がかかると思われるが、市債が少ないのではないか。

⇒候補地の経済性の比較においては、新庁舎の整備費用として整理した。シティホテルなどの補償費用も試算に含んでいる。商業ビルについては、建物の維持費が30年間で30億8,000万円かかるという試算を反映し、駅前にはコンベンション機能が必要であるという共通の前提条件で各候補地を比較している。よって、美濃太田駅周辺以外の候補地では商業ビルの建物を維持する費用を設定している。

広報に掲載した市債には臨時財政対策債も含まれているが、対策債は国が地方交付税の不足を補完する市債であるので、今回はよりわかりやすくするため事業債のみを整理した。なお、事業債のうち2割程度については地方交付税として国による措置が見込まれる。

□用地購入費には駐車場の整備費用は入っていないのではないか。

⇒駐車場用地にかかる費用も入っている。

□美濃太田駅の南は浸水想定区域ということであるが、木曾川への排水ポンプが足りないことから想定されているのであれば、ポンプの増設や堤防をつくることも大事ではないか。

美濃太田駅の南に庁舎を建てるのであれば、駅を横断して車で南北に行ける道路はどうか。

連絡所をリモートの的に使えないか。歩いて行ける距離に市役所の機能があるということが大切ではないか。

⇒加茂川の排水ポンプは増設を繰り返しており、現在は最終の形である。堤防の一部は完成していないが、現在は流域治水という考え方が主になっており、これは雨を待ち受けるという考え方。降雨や避難に関する情報を早く伝えること、早い避難行動を促すことが大切である。

サテライト構想を進め、サテライト拠点である（仮）地域協働センター（連絡所）で行政サービスが完結できるようにしたい。

□理想をとるか現実をとるかという考えもあるが、市は現実的な考えをとったのだと思う。

⇒説明させていただいた新庁舎整備の方向がベストであると考えている。次の世代に負担をかけないようにしなければならない。これからも職員が出前講座などで丁寧に説明していきたい。